

北海道から 岩手県へ

氏名 太田 稔

北海道網走南ヶ丘高等学校 → 岩手県立盛岡第一高等学校

(期間：平成27年4月1日～平成30年3月31日)

1 派遣先の学力向上等の取組

○生徒に時間を返す取り組み

生徒の主体的学びを育むため、生徒に時間を返す取り組みが進められていた。具体的には、部活動休業日の設定や生徒に課す課題の量を抑える、などがある。

○5教科を学ばせる取り組み

岩手県の進路指導においては文系理系とも教科を絞ることなく5教科を学ばせている。広く学ぶことで学びが浅くなることはなく、教科間の知識が連環していくことでかえって生徒の学びは深くなる印象であった。

○キャリア教育との相乗効果を狙った課題研究

派遣先校はSGH指定を受けており、課題研究を行っていた。大学・市役所・企業・住民といった地域の教育資源を活用し、学校だけでは得られないジェネリックスキルを獲得できるプログラムになっていた。また、進学後の学びを意識する仕掛けが随所にほどこされており、課題研究を通して進路意識が高まるよう工夫されていた。

2 北海道に戻って実践したいこと

○地域の教育資源を活用したキャリア形成型課題研究

地域との接続、研究との接続を意識したコンピテンシーベースの課題解決学習（PBL）を実践したい。調べ学習に終わらずプロジェクト型にすること、活動するだけに終わらず校外の研究者と接続すること、これらを通して生徒のキャリア形成を図る。

○QOL（Quality Of Learning）の向上

各教科が多く家庭学習課題を与える物量主義の指導では生徒が伸びないことを実感した。家庭学習が重要となる教科とのバランスを考え、教科指導（国語）ではできる限り50分の授業だけで学力を伸ばす。時間を浪費する作業的な課題を減らし、生徒が主体的かつ本質的な学びを深められるよう支援したい。

○県教委で主催する教員免許更新講習

岩手県では県教委が教員免許講習を10年経験者研修として実施している。対象者の経済的・時間的負担が軽く、悉皆研修なので職場の理解も得やすい。一教諭に過ぎない報告者が実践できることではないが、教職員の多忙化解消にも効果的な取り組みであるため「実践していただきたいこと」として特筆する。